The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku News(Syowa No.9)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/4001

『北國新聞』文芸関係記事年表稿（昭和篇⑨・完）

The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku News(Syowa No.9)

森　英一

Eiichi MORI

この年表は本紀要第五十五号（平成18・2刊）の『北國新聞』文芸関係記事年表稿（昭和篇⑧）」を承けるものである。調査に際しては、金沢大学附属図書館所蔵のマイクロフィルムを使用した。

昭和三十八年

1　1　「山と還暦」深田久弥
〃　〃　「愛国心は自由栽培で」大江健三郎
〃　3　「読者新年文芸」近藤芳美、富安風生、麻生路郎選
〃　〃　「平和への一里塚」山岡荘八
〃　10　「小説の中の男づくり女づくり」（☆座談会、柴田錬三郎、源氏鶏太、岩田専太郎）
〃　10　「商いの神さま」山崎豊子
〃　〃　「新年創作入賞一席作品・古い椎の木のある家にて」風村律　12日　3回完
〃　13　「戦前戦後」森山啓
〃　〃　「短歌の理想を具現」夜久正雄
14　「歳月」田宮虎彦
15　冬の金沢はすてきね、曽野綾子さん夫妻が来沢（☆記事）
〃　夕　「御歌会始め陪聴記」杉森久英
16　「ソ連文学の〝自由〟は本物か」ロナルド・ヒンレー
〃　「能登のご崇歌をみる」長田恒雄
17　「北国俳壇十二月賞」富安風生選
〃　夕　「伊藤整『求道者と認識者』」手塚富雄
18　「サッカリン文化」福田宏年
19　「古書『金沢叢書』」城宝栄作
20　「見失われた情熱」橋川文三
〃　「地方の壁」宮城音弥
22　夕　「ナマガシについて」杉森久英
23　夕　「井上靖詩集『地中海』」菱山修三
24　「古いアメリカ」江藤淳
〃　「芥川、直木賞選考経過」無署名
25　「天領民の姿勢」八田健一
〃　「田宮虎彦『木の実のとき』」太田順子
26　「読書について」鵜飼信成

平成18年10月2日受理

〃　〃　「二月号の文芸雑誌」青柳瑞穂
〃　〃　「新保千代子の室生犀星」無署名
〃　〃　「合評『室生犀星ききがき抄』」北国書評グループ
27　〃　「二人の直木賞作家」伊藤桂一
〃　「ユーモラスな新しさ―『江分利満氏』の山口瞳氏」奥野健男
28　「雪の中にありて」黒田桜の園
29　「旧軍人の正しい姿を」杉森久英
30　「面目発揮した絶筆―故白鳥の『人生恐怖図』を読んで」中島河太郎
31夕　「インタビュー『室生犀星ききがき抄』新保千代子さん」
〃夕　「鳥越信『児童文学入門』」滑川道夫
2　7　「井上靖『詩集・地中海』」福田宏年
8　「物足りなくなった内容、廃刊つづく児童雑誌」無署名
9　「今日出海著『まだまだ夜だ』」西敏明
〃　「伊藤桂一著『落日の悲歌』」浅野郁代
〃　「『15年戦争』編集の意図」安田武
10　〃　「若林のぶ歌集『やはらかき耳朶』」津川洋三
〃　「糸藤義人評論集『幼きものの怖れ』」上川幸作
〃　「消息・杉森久英氏」無署名
11　「郷土性意識の過剰―主として文学の立場から」小松伸六
13　「春待つこころ―ウグイスの死」津田嘉信
〃　「山本健吉著『十二の肖像画』」篠田一士
14　「精神主義評価は危険―『雨ニモ負ケズ』論争」伊藤信吉
〃夕　「インタビュー・秋元松代さん」
20夕　「村松剛著『文学と詩精神』」中村稔
23　「佐多稲子著『女の宿』」渡辺喜恵子
31　「田谷さんと『柱時計』など」藤田福夫

2　「『北陸文学』第二〇号によせて」西敏明
4　「三島由紀夫『愛の疾走』」森井道男
7　「新しい生命力と実証精神―『アララギ』の伝統の意味」葛原繁
〃夕　「山口瞳『江分利満氏の優雅な生活』」駒田信二
10夕　「山本健吉『十二肖像画』」小松伸六
〃　「城山三郎『小説日本銀行』」福田宏年
13　「浦山監督と『非行少女』」森山啓
〃　「歴史と人物」高柳光寿
〃　「北国歌壇二月賞」近藤芳美選
〃　「北国俳壇二月賞」富安風生選
14　「能登の春から―味の風土記」四柳嘉孝
17夕　「推理小説時評」鈴木幸夫
20　「武田泰淳『私の映画鑑賞法』」浅野郁代
〃　「梶山季之『夜の配当』」福田茂夫
22夕　「城山三郎『小説日本銀行』」関根弘
24　「浦山監督の独創と善意」森山啓
〃　「濃紅梅」黒田桜の園
〃夕　「福田清人他『児童文学概論』」富沢衡彦
26　「作者のことば」吉行淳之介
27　「英雄の死と女性像」（☆座談会、石川弘義、江藤文夫、尾崎秀樹、山田宗睦）
〃夕　「岩谷大四『随筆おにやらい』」戸板康二
〃夕　「読書インタビュー・中山義秀」
30夕　「赤と紫」吉行淳之介　11・7　220回完
4　1　小納氏に第一回北陸児童文学賞（☆記事）
3　「小田実『日本を考える』」太田順子
〃　「水上勉『五番町夕霧楼』」森井道男

〃　「田久保英夫『解禁』」奥野健男
5夕　「残酷とは何か」大島渚
6　「杉本苑子『孤愁の岸』」西敏明
7夕　「むりに私はすすめない」小松伸六
〃夕　「推理小説時評」鈴木幸夫
10　中国の詩集に掲載、芦田さんと浜口氏の作品（☆記事）
〃　「葦男・三鬼の共通性」金子兜太
14夕　「私の収集」小松伸六
16　「作者の言葉」曽野綾子
17　「胡堂さんをいたむ」山手樹一郎
〃　「読書インタビュー・木下順二氏」
21夕　「美しき誤解」小松伸六
22　「ぜったい多数」曽野綾子　39・1・28　全279回完
23　「須知徳平『春来る鬼』」浅野郁代
〃　「北国歌壇三月賞」近藤芳美選
〃　「北国俳壇三月賞」富安風生選
24夕　「読書インタビュー・豊田正子」
〃夕　「芝木好子『狂った時計』」平田次三郎
〃夕　「北国柳壇三月賞」麻生路郎選
28夕　「天皇誕生日に思う」小松伸六
29　「作者の言葉」柴田錬三郎

5
3　「お江戸日本橋」柴田錬三郎　39・3・20　320回完
〃夕　「杉浦明平『田舎・炭鉱・部落』」井上光晴
9　「文学の貴重な泉―久保田万太郎をいたむ」林房雄
〃　「私の好きな主人公・アラビアのロレンス」中野好夫
10　「長谷川伸『我が足許提灯の記』」寺崎浩
〃　「消息・水芦光子さん来沢」
〃　「私の好きな主人公・紫式部」中村真一郎
〃夕　「井伏鱒二『武州鉢形城』」庄野潤三
〃夕　「長谷川伸『日本敵討ち異相』」村上元三
11　「子母沢寛『二丁目の角の物語』」西敏明
12夕　「性的人間」小松伸六
〃　「読書インタビュー・松本清張」
〃　「鮎川哲也『砂の城』」鈴木幸夫
15　「岡部伊都子『古都ひとり』」太田順子
17夕　「北国柳壇四月賞」麻生路郎選
19　「私の好きな主人公・家康」山岡荘八
〃　「金沢・能登あるき」水芦光子
〃　「弁吉忌」長崎幸雄
23　荷風の碑がたつ、東京南千住（☆記事）
24　「北国歌壇四月賞」近藤芳美選
〃　「北国俳壇四月賞」富安風生選
26夕　「自然児」小松伸六

6
1　「めくらのかぎのぞき」伊藤武雄
〃　「神田茂雄『畦道をゆく』」津田嘉信
4夕　「大雪の後の花」森山啓
6　「小説の材料」（☆講演記録）松本清張　8日　3回完
7　「和歌森太郎『相撲今むかし』」北条誠
8　「山本健吉『小説の再発見』」小田切秀雄
9夕　「吉田健一訳『ブライヅヘッドふたたび』」山本健吉
11夕　「青梅の頃」森山啓
13　「晶子の晴着」芦田高子
14　「北国歌壇五月賞」近藤芳美選
〃　「北国俳壇五月賞」富安風生選
15　「大原富枝『女の塔』」浅野郁代
〃夕　「長谷川伸先生と新国劇」島田正吾

〃夕「明治の巨木倒る―いま猿翁を失う」安藤鶴夫
23夕「読書インタビュー・『萩原朔太郎』三好達治」
〃夕尾山篤二郎氏死去（☆記事）
24「未完の旅路『犀星ききがき』―エッセイスト・クラブ賞を受賞して」新保千代子
〃「清貧の歌人―尾山篤二郎氏をしのぶ」上山南洋
25夕「ニワトリの卵」森山啓
29「大岡信『芸術と伝統』」小野十三郎
7 2夕「結婚詐欺に類する因習」森山啓
6「七月号の文芸雑誌から」青柳瑞穂
9夕「科学者たちの警告」森山啓
10「有馬頼義『少年の孤独』」西敏明
12「北国俳壇六月賞」富安風生選
〃「北国歌壇六月賞」近藤芳美選
13「現代短歌をめぐって」寺田透
〃「恐怖趣味の怪奇な物語り―カーレン・ブリクセンとゴシック小説」山室静
14「『辻政信』伝」上山南洋
15日の目みた俳人の墓―大橋卓丈の墓（☆記事）
16夕「真夏のよろこび」森山啓
18「作者の言葉」南条範夫
21「兄弟流転」南条範夫　39・6・22　310回完
22「北国柳壇六月賞」麻生路郎選
23夕「因習と嫁飢饉」森山啓
25「いまこそ本を読め」山本健吉
27「舟橋聖一『心変り』」太田順子
30夕「ニンニク」森山啓
8 3「佐藤荷人遺著『富来院の史と詩』」室木弥太郎
〃「山川方夫著『親しい友だち』」本多吉信
〃「庄野潤三『つむぎ唄』」浅野郁代
4夕「『鳥』と犬と」陣出達朗
10「昼のあわれ」杉本苑子
〃「田宮虎彦著『生きるいのち』」福田茂夫
11夕「那谷寺と芭蕉」陣出達朗
15「宇宙ばか」埴谷雄高
〃「歴史の流れとの融合―真の『戦争文学』を待望する」村上兵衛
16「松田道雄『反逆者の肖像』」秋山清
17「八月十五日の老人たち」有馬頼義
〃「消息」（☆杉森久英の近況）
18「日本人は誤解している―黒人問題について」フランク・D・アンダーウッド　20日完
〃夕「樹木とくすり」陣出達朗
〃夕「遠藤周作著『宗教と大学』」杉捷夫
22「北国俳壇七月賞」富安風生
〃「北国歌壇七月賞」近藤芳美選
〃「文芸時評」進藤純孝
23「西洋語学の先覚者ハビアンの生涯」山森青硯
24「松本清張著『落差』」西敏明
〃「コールドウェル著、三浦朱門訳『黒い情婦』」木島始
26夕「無責任時代」陣出達朗
30「十返肇追悼」田村泰次郎
〃夕「佐藤春夫著『詩文半世紀』」山本健吉
9 5「遺志つぐ新鷹会」土師清二
〃「『短詩型文学論』」原子公平
6「『文学選集38年版』」福田宏年

〃夕「武田泰淳著『ニセ札つかいの手記』」村松剛
8　犀星碑は再検討（☆記事）
〃夕「吉川英治先生」陣出達朗
〃夕「白洲正子著『能面』」丸岡明
10「推理小説時評」鈴木幸夫
14「蔵原惟人氏との一時間」森井道男
〃「菊村到著『遠い海の声』」浅野郁代
15夕「現代の忍術」陣出達朗
〃夕「文学に見る近代日本の足跡」柳田泉、勝本清一郎、猪野謙二（以下、適宜掲載）
21「郷土三大文豪展によせて」新保千代子、藤田福夫、殿田良作
22「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
〃「北国俳壇八月賞」富安風生選
〃夕「美しき『壇の浦』」陣出達朗
27夕「三好達治著『草上記』」黒田三郎
29夕「ちょっと待て」陣出達朗
10　1夕「片山津に寄せる」陣出達朗
3「新しい俳人格をみる」金子兜太
4「民話伝承の家」小倉学
〃　反省の色もない検察当局、来沢の広津和郎氏ら語る（☆記事）
〃夕「梅崎春生『狂い凧』」浅見淵
6夕「イタリア抜き」西義之
13夕「日本知らず」西義之
18「広津和郎氏との一時間」（☆対談）
〃「杉森久英『辻政信』」西敏明
〃「小田実『大地と星輝く天の子』」井上光晴
〃夕「『金沢・百万石の城下町』」小松伸六
20「地方紙への親しみ」森山啓
21夕「『宇野浩二回想』」吉田精一
29「北国歌壇九月賞」近藤芳美選
〃「北国俳壇九月賞」富安風生選
11　3「百姓と教師―文化の真のあり方」唐木順三
〃夕「作者の言葉」石原慎太郎
5夕「きれいな選挙への道」（☆座談会、平林たい子他）
8夕「青春とはなんだ」石原慎太郎　39・10・17　303回完
〃「インタビュー『審判』の堀田善衛氏」
10「最近の推理小説」鈴木幸夫
〃夕「後藤紀一著『少年の橋』」日沼倫太郎
15　百姓一きを書きたい、陣出達朗氏が四年ぶり来県（☆記事）
〃「作家近況『検事城戸明』の佐賀潜氏」
19「旅の恥はかきすて」杉本苑子
20夕「北国柳壇十月賞」麻生路郎選
21「藤原審爾『結婚までを』」福田茂夫
〃「三島由紀夫『午後の曳航』」森井道男
22「論評への不信の要―文壇改革の出発点」進藤純孝
〃「二つのパリ」国本克巳、北浜淳
〃夕「インタビュー『太宰治おぼえがき』の山岸外史氏」
〃夕「書評『アテネに死す』」篠田一士
24「二つの〃まさか〃―ケネディ暗殺事件に思う」小田実
29「北国歌壇十月賞」近藤芳美選
〃「北国俳壇十月賞」富安風生選
〃「沢田美喜『黒い肌と白い心』」浅野郁代
12　1夕「ケネディ夫人の印象」水芦光子

〃夕「書評・エフトシェンコ『早すぎる自叙伝』」大江健三郎
2「現代短歌の回復の目―『アララギ』の性格、功罪」葛原繁
〃「書評・梅崎春生『狂ひ凧』」西敏明
3 歌人佐佐木信綱氏死去（☆記事）
5「遅れている法律―サド裁判の二審を聞いて」遠藤周作
6「ある歌会＝農家の主婦たちはうたう＝」永瀬清子
7「待ちかねし五輪」サトウ・ハチロー
8夕「持ち時間」水芦光子
10「書評・舟橋聖一『ある女の遠景』」太田順子
11夕「書評・円地文子『鹿島綺譚』」進藤純孝
12「蕉門作家と方言について」芦田高子
13「市田渡歌集『梅擬』」津田嘉信
15夕「ちかごろの女人」水芦光子
22夕「雪きたる」水芦光子
27「詩集『飢』」浜口国雄著」西敏明
〃「片手の鳴る音―米の新作家サリンジャーの諸作」鶴羽伸子
〃夕「北国柳壇十二月賞」麻生路郎選
29「注目ひく安部、川端の二作―新年号の文芸雑誌から」佐々木基一
〃「引っ越し癖」瀬戸内晴美
〃「北国歌壇十一月賞」近藤芳美選
〃「北国俳壇十一月賞」富安風生選
〃夕「逝く年」水芦光子

昭和三十九年

1 1「青年への提言」石原慎太郎
〃「雪の女神へ」森山啓
〃「新しい夫婦像をさぐる」（☆座談会、武田泰淳、佐藤愛子、岡本太郎）
3「新年文芸入選作」（☆短編小説、川柳、短歌、俳句）
〃「選者近詠」近藤芳美、富安風生、麻生路郎
5夕「だら」水芦光子
9 発売と同時に売り切れる、ソ連語訳歌集「芦田高子選集」（☆記事）
10「書評・『クレオパトラの生涯』」浅野郁代
〃夕「書評・三島由紀夫『剣』」長谷川四郎
12「文学と友情」高橋和巳
〃 廃品の中から〝万葉春日本〟（☆記事）
〃夕「成人式に思う」水芦光子
13「新年創作第一席入選作・台風」鹿島茂 15日3回完
17「能登と尾崎紅葉」蒲生欣一郎
〃夕「書評・井上靖著『続しろばんば』」小松伸六
19「最大の短編作家―九十歳を迎えるモーム」田中睦夫
〃夕「裁判」水芦光子
23「文学の中の織り物」前多一則
24「芥川賞、直木賞の三人」久保田正文、瀬沼茂樹、戸板康二
〃「作者の言葉」阿川弘之
29「とにもかくにも」阿川弘之 39・8・7 191回完
2 3夕「小さなこと」沢木欣一
6「北国俳壇一月賞」富安風生選
〃「北国歌壇一月賞」近藤芳美選
7「消息」（☆杉森久英のこと） 無署名

〃夕「未成年者とたばこ」梶井重雄
〃夕「書評・瀬戸内晴美『女徳』」八木義徳
8「卑屈になるな」遠藤周作
9「推理小説の宿命―最近の作品から」鈴木幸夫
〃 犀星文学碑、来月三十日に除幕式（☆記事）
10夕「まだまだ戦後」沢木欣一
11「建国記念日について」坂西志保
〃「空海と書道」吉田北辰
13「停滞感じる詩の世界」伊藤信吉
〃「書評・瀬戸内晴美『ブルーダイヤモンド』」森井道男
15「注文の二、三」遠藤周作
16「現代芸術論争に思う」中村慎吉
17夕「職人の手仕事」沢木欣一
18「鴎外と金沢」藤田福夫
20「アラビアのロレンス」大沢衛
〃「漁・草平・秋声」藤田福夫
〃「詩を売る店」秋谷豊
〃「早かった四十年―尾崎士郎を悼む」坪田譲治
〃「書評・長谷川四郎著『目下旧聞編』」小島信夫
21「書評・『日本の文学谷崎潤一郎（一）』」福田宏年
〃「書評・高島筍雄句集『往診』」北市都黄男
22 尾崎氏、文化功労者に、故人ではじめての受賞（☆記事）
23「くくたち」黒田桜の園
24夕「輪島の柚べし」沢木欣一
〃夕 古田健一さん、ひょっこり来県（☆記事）
27「石川達三著『傷だらけの山河』」太田順子
〃「作家訪問・幅ひろい石川文学」無署名
〃「鏡花の手紙二通」藤田福夫
28「しぶい―利休忌によせて」針生一郎
〃「春を呼ぶ知恵」林屋辰三郎

3
1「雛の膳」新保千代子
〃「三月号の文芸雑誌」佐々木基一
2夕「実感」沢木欣一
3「書評・『父・夏目漱石』」浅野郁代
〃「『井上光晴詩集』」関根弘
〃「岩倉政治著『田螺のうた』」西敏明
6夕「電話塔」梶井重雄
8「鶯餅」綱村流水
9夕「小事」沢木欣一
14「作者の言葉」山手樹一郎
〃「推理小説時評」鈴木幸夫
〃「書評・唐木順三著『無常』」杉浦明平
〃「北国俳壇二月賞」富安風生選
16夕「梅見」沢木欣一
20「百万人の小説家―山手樹一郎小論」小松伸六
〃「作者訪問・山手樹一郎さん」無署名
〃「北国歌壇二月賞」近藤芳美選
21「青雲燃える」山手樹一郎　40・3・2　344回完
23夕「輪島の朝市」沢木欣一
30夕「桐生悠々のこと」沢木欣一

4
3夕「軽率だった―原作者として映画に出演するの弁」戸川昌子
5「高尾の筍」浜口国雄
7「円地文子『雪燃え』」太田順子
9「泥中のハス」西谷啓治
〃「ハス博士と加賀蓮根」田中喜男

5
21 「西村通男『海商三代』」下出積子
〃 「著者西村通男インタビュー」無署名
〃 「三島由紀夫『喜びの琴』」西敏明
〃 「北国俳壇三月賞」富安風生選
23 「シェークスピアの魅力」飯島小平、尾崎宏次
〃 「北国歌壇三月賞」近藤芳美選
24 「処女出版の記―小説『徴さん』の生まれるまで」熊谷宗秀
27 「なげやりな書き方―見過ごせぬ新人の態度」進藤純孝
28 「現代俳句の前衛―季節のみがすべてでない」金子兜太
1 詩「五月の詩」井上啓二
〃 「有馬頼義著『ある恋のために』」福田茂夫
5 「あやめ咲く―父犀星の思い出」室生朝子
〃 「犀星の周辺―新人を世に送る者」藤田福夫
〃 「文学者よいでよ」川口久雄
〃 犀星文学碑除幕式（☆記事）
6 「北杜夫著『楡家の人びと』」荒正人
7 佐藤春夫氏急死（☆記事）
8 「寛仁の人―佐藤春夫氏をいたむ」奥野信太郎
9 「『母の日』によせて―母自慢」平岩弓枝
12 「啄木と小奴のこと」若林のぶ
〃 「加能作次郎の一背景―未公開の日記から」無署名
〃 「小島政二郎『わが古典鑑賞』」浅野郁代
22 「ファウストの表現」埴谷雄高
〃 「北国俳壇四月賞」富安風生選
26 「北国歌壇四月賞」近藤芳美選
29 「石垣綾子著『赤いおんな』」西敏明
〃 「三島由紀夫著『私の遍歴時代』」森井道男

6
2 「一時期を画した佐藤氏の死」佐々木基一
4 「書評・芝木好子『丸ノ内八号館』」平田次三郎
5 「書評・大江健三郎『日常生活の冒険』」奥野健男
12 鏡花文学碑の建設決まる（☆記事）
15夕 「作者の言葉」村上元三
16 「書評・井上靖『城砦』」森井道男
〃 「書評・小林秀雄『考えるヒント』」河上徹太郎
19 「女が仕事をするとき」瀬戸内晴美
21 「『砂の女』と鏡花文学」村田健治
〃 「混乱する日本語」長田恒雄
〃 「北国歌壇五月賞」近藤芳美選
23 「おもしろい仕事―村上元三の小説と考え方」土師清二
〃 「本紙連載小説作家インタビュー・村上元三氏」
〃 「書評・リリアスミス『児童文学論』」岸田衿子
〃 「群盗往来」村上元三　40・7・30　342回完
〃 「文学と政治の協力＝日本近代文学館運動の意義」太田三郎
25 「意味の形象の世界＝ピカソ展を見て」開高健

7
1 「痛烈な佐藤春夫批判」奥野健男
29 姿消した金沢の文学、講師の小松さん来県（☆記事）
〃 「最近の新人の兆候」小松伸六
〃 「批評家への批判」巌谷大四
〃 「北国歌壇」近藤芳美選
3 「尾崎士郎著『小説四十六年』」木山捷平
〃 「犬丸さんの思い出―歌集『海表』をよんで」密田良二
〃 「山崎豊子著『花紋』」浅野郁代
〃 「北国俳壇五月賞」富安風生選
7 新しい鏡花の文学碑、除幕式は九月（☆記事）

8
14 「アメリカに多い合作小説」篠田一士
16 「北国俳壇六月賞」富安風生選
24 「芥川賞の柴田翔君」西義之
28 「本多顕彰著『歎異抄入門』」福田茂夫
〃 「石坂洋次郎著『金の糸・銀の糸』」太田順子
4夕 「北国柳壇」麻生路郎選
6 「作者の言葉」有吉佐和子
〃 「大仏次郎著『パリ燃ゆ・上巻』」杉捷夫
〃 「永井竜男著『大の虫小の虫』」浅見淵
〃 「北国歌壇」近藤芳美選
8 「新蝶々夫人」有吉佐和子　40・6・13　307回完
〃 「北国俳壇七月賞」富安風生選
9 「篠田一士著『伝統と文学』」関根弘
13 「20年の流れ」（☆座談会、広津和郎、松本清張、松島栄一）
14 「三代の敗戦体験」成瀬正勝、山田宗睦、藤島泰輔
16 「吉屋信子著『底のぬけた柄杓』」安住敦
18 「北国歌壇七月賞」近藤芳美選
21 「宿なしのまいご＝文学者の晩年」山室静
25夕 「ある日の三島由紀夫氏」安宅夏夫
27 「九月号の文芸雑誌」奥野健男
〃 「外国語」寺崎浩
28 「小田実著『壁を破る』」片桐ユズル
〃 「依田新編『テレビの児童に及ぼす影響』」西敏明
29 「東京五輪に望む＝たった一つでもいい」石原慎太郎
9
1 詩「九月の詩・翼」浜口国雄
3 「柴田翔著『されどわれらが日々―』」森井道男
〃 「小島政二郎著『葛飾北斎』」浅見淵
〃 「北国歌壇」近藤芳美選
4 「芥川賞の功罪」小松伸六
11 「新しい季題」エドワード・G・サイデンステッカー
〃 「広津和郎著『松川事件と裁判』」戒能通孝
〃 「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
17 「児童文学の火よ燃えよ」勝尾金弥
〃 「永杉喜輔著『下村湖人―その人と作品』」上笙一郎
〃 「北国俳壇八月賞」富安風生選
18 「共産党から処分をうけた中野重治氏」無署名
〃 「郷土の国学者高橋富兄翁をしのぶ」桑山周一
20 「文学に現われた愛のすがた」森井道男　27日
28夕 三島由紀夫氏ら敗訴「宴のあと」裁判（☆記事）
10
8 「紅葉美しい那谷の秋」大瀬飛天
〃 「北国俳壇」富安風生選
11 「平和な日本を見直す―色と響きの供宴」大仏次郎
12 「創刊三十周年のあらうみ」杉原竹女（☆談話）
14 「西東登著『蟻の木の下で』」中田耕治
〃 「安田武著『戦争文学論』」作田啓一
〃 「インタビュー・ドイツから帰った芥川賞作家柴田翔」
15 「作者の言葉」梶山季之
16 「五輪観戦記」大江健三郎
〃 「五輪観戦記」安岡章太郎
18 「インタビュー・梶山季之氏」
〃 「梶山季之氏のこと」巌谷大四
〃 「北国歌壇」近藤芳美選
〃 「文学に現われた愛のすがた・三島由紀夫『潮騒』」森井道男
18 「てやんでェ」梶山季之　40・9・28　291回完
21 「北国俳壇九月賞」富安風生選

〃　「十二月の文芸雑誌評」奥野健男
〃　「ミイラ取りのミイラ、作家転じて〝古書魔〟に」稲垣史生
3　「眼中の句―十二月―」楠本憲吉
8夕　「北国柳壇」麻生路郎選
13　「成功したニューヨークの能公演」山崎正和
〃　「未来は長い―SFとテレビ」星新一
19　「北国俳壇十一月賞」富安風生選
22　「北国歌壇十一月賞」近藤芳美選
〃　「1964年の顔・作家大仏次郎氏」無署名
24　「ことしの読書から・日本文学」青山克弥
26　「三好達治著『月の十日』」木原孝一
27　「あれから一年・大交響楽のなかで」芦田高子
28　「新年号の文芸雑誌」（☆特に三島と円地）佐伯彰一
〃　「ことしの読書から・県人の創作活動」西村通男
31　「池田弥三郎他編・久保田万太郎回想」平田次三郎

昭和四十年

1
1　「石川県の県鳥」中西悟堂
〃　「ヘソクリ必要論」山口瞳
〃　「新生二十年」河上徹太郎
〃　「日本人の影」江藤淳
3　「作者のことば」（☆明日夕刊から連載の『霜柱二十年』）森山啓
3　「冬芝」（☆短歌5首）近藤芳美
〃　「鄙の春」（☆俳句5句）富安風生
〃　「迎春」（☆川柳5句）麻生路郎

11
3　〃　「北国柳壇」麻生路郎選
6　「文学賞の皮肉」佐伯彰一
7　「長谷章久著『芭蕉―その旅と史蹟』」井本農一
〃　「邦光史郎著『人間動物園』」金子曽政
〃　「豊田正子著『おゆき(1)(2)』」西敏明
8　「〝国産品〟を大事に・子供向けドラマ雑感」山中恒
12　「詩人の朝」尾崎喜八
14　「安部公房著『他人の顔』」星新一
〃　「原田康子著『望郷』」駒田信二
16　「未来の広告」小松左京
〃　「新聞広告に夢を」曽野綾子
〃　「北国歌壇十月賞」近藤芳美選
17　「北国俳壇十月賞」富安風生選
21　「三島由紀夫著『絹と明察』」篠田一士
26　「文芸の盗作問題」大熊信行
〃　「北国柳壇」麻生路郎選
29　「ふるさとの味・こぬかイワシ」杉原竹女
30　「中西悟堂著『定本野鳥記』」木村久吉
〃　「山岡荘八著『毛利元就・上下』」福田茂夫

12
1　詩「十二月の詩」釣川栄

10　「渋沢龍彦著『サド侯爵の生涯』」埴谷雄高
24　〃　「五輪観戦記」水上勉
25　「野本さんの句集のこと」小松砂丘
〃　「北国歌壇九月賞」近藤芳美
29　「主婦と読書」平岩弓枝
30　「大仏次郎君の受賞を祝う」鈴木信太郎
31　「11月号の文芸雑誌から」奥野健男
〃　「仕事は不老の術」萩原井泉水

〃　「新年文芸入選作」（☆短歌、俳句、川柳）
〃　「随想・一月」渡辺一夫
4　「女の生き方」（☆対談）野上弥生子・羽仁説子
〃夕　「霜柱二十年―回想録ふるさと文化史抄」森山啓
7　「雪について」（☆詩）森田章稔
9　「20世紀詩壇の巨星―T・S・エリオットをいたむ」安藤一郎
〃夕　「雪の宿」松本清張
〃夕　「北国柳壇」麻生路郎選
10　「文学と理想主義―日本で育たぬ要因」手塚富雄
13　「第一歩の年のこと」新保千代子
14　「『期待される人間像』をめぐって」（☆対談）高坂正顕・大江健三郎
〃　「成人式はこれでいいか」古谷綱武
〃　「アンケート・はたちの頃の愛読書」佐多稲子ほか二人。
15夕　「歌会始めお題発表」
16　「ローマ法王の権力」三浦朱門
〃　「眼中の句―一月―」楠本憲吉
〃夕　「星新一著『夢魔の標的』」権田万治
19　「加波扇を追跡する」八田健一
〃　「むずかしい実在人物―うず潮に明け暮れた一年」田中澄江
〃　「高尾山、消えた昔のユメ」山口瞳
〃　「北国歌壇」近藤芳美選
21　「詩の青春と老年」清岡卓行
〃　「日本への回帰―河井酔茗氏を悼む」安東次男
〃　「二月の文芸雑誌から」佐伯彰一
22　「直木賞作家を語る」清水基吉、和田芳恵
〃　「芥川、直木賞の選考経過」
23　「芹沢光治良著『人間の運命』」浅見淵
26夕　「直木賞作家と女ごころ」小松伸六
28　「石川達三著『私ひとりの私』」浅野郁代
〃　「安部公房『無関係な死』『水中都市』」大岡信
2　2夕　「北国柳壇」麻生路郎選
6　「野口富士男著『徳田秋声伝』」和座幸子
〃　「中山義秀著『咲庵』」西敏明
〃　「北国俳壇一月賞」富安風生選
9　「私はそれを仏と呼ぶ―現代と宗教」本多顕彰
11　「紀元節の復活」家永三郎
12　「思想の無風状態―女性作家の進出に思う―」村松剛
13　「北国歌壇一月賞」近藤芳美選
15　「岡村昭彦著『南ベトナム戦争従軍記』」城戸又一
17　「洋服のセンスで気軽に」宇野千代
19　「数々の神話は消えた」村松剛
20　「森山重雄著『中世と近世の原像』」杉浦明平
〃　「〃ネクサス〃に見るミラーの自画像」牧田徳元
23　「作者のことば」大仏次郎
25夕　南ベトナムから開高健氏帰る（☆記事）
3　2　「三月の詩・断層」吉田美那子
〃　「鞍馬天狗への期待　〃大仏文学への系譜〃」無署名
〃　大藪春彦つかまる、ライフルなど押収（☆記事）
3　「鞍馬天狗　地獄太平記」大仏次郎　40・9・25　205回完
6　「石原慎太郎著『青春とはなんだ』」福田茂夫
〃　「井上靖著『羅刹女国』」森井道男
〃　「和辻哲郎著『故国の妻へ』」魚津郁夫

6　犀星の生家（☆記事）
7　「北国歌壇」近藤芳美選
〃　「北国俳壇」富安風生選
10　「ど根性㊱杉森久英」無署名
13　『山田宗睦著『危険な思想家』』柚正夫
〃　「永井路子著『炎環』」西敏明
〃　「渡辺三男著『裏切者』」金子曽政
18　「日本語話せぬ？日本人」木下順二
〃　「北国歌壇二月賞」近藤芳美選
19　「中村真一郎著『空中庭園』」栗田勇
〃　「松本清張著『彩色江戸切絵図』」太田順子
〃　「北国俳壇二月賞」富安風生選
24　「ど根性㊺中西悟堂氏」無署名
27　「山本健吉著『ことばの歳時記』」浅野郁代
〃　「加藤惣吉編『続白山紀行』」浅香年木
〃　「川添登著『都市と文明』」飯沢匡
28　「『芸』と『芸術』」江藤淳
〃　「文学の多面化―現代文芸の状況」進藤純孝
〃　「四月の文芸作品」佐伯彰一
31　「新刊紹介」（☆「能登文芸」11号「笛」29号他）

4
6　「日韓会談の仮調印に思う」梶山季之
8　「中野重治著『眺め』」進藤純孝
〃　「壺井栄著『海の音』」西敏明
〃夕　「北国柳壇」麻生路郎選
13　「秋声の周辺―野口富士男さんをたずねて―」無署名
〃　「こわい作家の目―ノンフィクション賛」佐藤朔
17　「『秋田雨雀日記』（第一巻）」村山知義
20　「犀星と俳句と金沢―『犀星俳文学賞』設定によせて」山本清嗣
〃　「推理小説昨今」日影丈吉
〃　「北国歌壇三月賞」近藤芳美選
22　「北国俳壇三月賞」富安風生選
23　「佐多稲子著『生きるということ』」浅野郁代

5
3夕　「子規の句から」高島筍雄
4　「五月」渡辺一夫
〃　「鴎外にみる明治の象徴」吉田精一
〃　「なぜ評論家が小説を書くか―臼井吉見氏の場合」無署名
7　「山本清嗣句集『ぼだいじゅ』」西村公鳳
〃　「ボーヴォワール著『おだやかな死』」太田順子
〃　「北国歌壇」近藤芳美選
11　「芸術運動の現状と課題」針生一郎
〃　「水ぬるむ季節の訪れ」村田為五郎
14　「アイザック・アシモフ著『空想自然科学入門』」小松左京
15　「北国俳壇四月賞」富安風生選
18　「近代化の具となった演劇、文学」村松剛
〃　「訪ソ中の井上靖氏」（☆コラム）
20　「北国歌壇四月賞」近藤芳美選
〃　「幸福な境地にはいるには」久保田正文
21　「風致保存の門題」吉野秀雄
〃夕　「どっちが危険か？登山とドライブと」新田次郎
〃夕　金沢は変わったネ、円地文子金沢入り（☆記事）
22　「杉森久英著『啄木の悲しき生涯』」西敏明
〃　「著者インタビュー・杉森久英氏」
〃　「書評『座談会・大正文学史』」稲垣達郎
26　「よい〃目〃よい〃耳〃」永井路子（☆講演要旨）

6
27「児童文学の課題」滑川道夫
〃 1「女流文学の周辺」（☆対談）円地文子・永井路子
28「亀井勝一郎著『愛の無常について』」磯田光一
〃「『危険な思想家』の著者・山田宗睦氏に聞く」
「夾竹桃」（☆詩）安宅夏夫
「犀星は金沢人だった、詩人の伊藤信吉さん」（☆記事）
6「円地文子著『小町変相』」福田茂夫
10「犀星俳文学賞に思う」大瀬飛天
11「作者の言葉」水上勉
14「鷹の鈴」水上勉　41・5・1　320回完
20「『金子光晴新詩集ＩＬ』」金子曽政
〃「北杜夫著『牧神の午後』」浅野郁代
24〃「興味ある二つの伝記」藤田福夫
〃「北国俳壇五月賞」富安風生選
7
1〃「北国歌壇五月賞」近藤芳美選
「七月の詩」高瀬誠子
3「臼井吉見著『安曇野』」磯田光一
9「水上勉の文学」尾崎秀樹
〃「インタビュー・水上勉氏」
〃「分裂続く俳壇」無署名
10〃「麻生路郎氏を悼む」桜井六葉
13「北国歌壇六月賞」近藤芳美選
〃「キリスト教と日本の伝統」久山康
16「北国俳壇六月賞」富安風生選
17「私の児童文学観」（☆対談）橋本ときお、勝尾金弥
18「女の生き方」（☆談話）平林たい子
〃「上半期の出版界」巌谷大四
19〃「文学と人生」（☆座談会、来県した井上靖氏を囲んで）
20芥川賞、直木賞決まる（☆記事）
23「芥川・直木賞の作家たち」小松伸六
〃「えん人的だが暖かい目―梅崎春生君をいたむ」中村真一郎
〃「八月号の文芸作品」佐伯彰一
27「犀星俳文学賞を選んで」山本清嗣、西村公鳳、塩田紅果
〃夕「峠三吉詩碑のこと」中村慎吉
28夕「作者の言葉」小島政二郎
29「心は卑しくなるばかり」水上勉
〃「最近の女流詩集から」土橋治重
31「文豪谷崎ゆく」武者小路実篤、伊藤整、富田砕花
〃「湘碧山房、ごったがえす―谷崎さんの死（☆記事）
〃夕「朱唇一代」小島政二郎　41・8・22　325回完
8
2「交通事故について・女の目」平岩弓枝、戸塚文子
3「昭和史報告」芦田高子
〃「二十年前の被爆」寺崎浩
4「昭和史報告・夜の旅」椎名麟三
〃「北陸人の美しさ描く―加能作次郎をしのんで」長谷安次
6「昭和史報告・六日午前八時十五分」岩佐幹三
7「昭和史報告・のらくろの郷愁」田河水泡
10「昭和史報告・戦争中のこと」尾崎一雄
12夕「蓮の花咲く」浜口国雄
13「昭和史報告・敗北の年月」佐多稲子
〃「戦後の名著十冊」（☆アンケート）
15「戦後二十年の文化」（☆対談）大岡昇平、加藤周一
20「高見順氏をいたむ」小田切進、小田一郎
〃「北国歌壇七月賞」近藤芳美選
〃「昭和史報告・公約じゅうりん」安藤次郎

24 「昭和史報告・留置場時代」平林たい子
26 「昭和史報告・国民のかなしみ」今井誉次郎
28 「小島政二郎の魅力と文学」日沼倫太郎
〃 「九月号の文芸作品」佐伯彰一
〃 「インタビュー・小島政二郎氏」
〃 「北国俳壇七月賞」富安風生選
9 2夕 「尾崎秀樹著『大衆文学論』」日沼倫太郎
〃夕 「丹羽文雄監修『おふくろ』」金子曽政
4 墓前で詩を朗読―折口博士の十二年祭（☆記事）
〃 「山崎豊子著『白い巨塔』」笠原伸夫
10 「郷土の川柳作家鶴彬・人と作品」岡田一と、古林徳次、山田文子
18 「井上靖著『楊貴妃伝』」森井道男
〃 「安部公房著『榎本武揚』」浅野郁代
21 「作者の言葉」木村毅
〃 「現代詩とは何か」中村慎吉、浜口国雄
23 「小説明治天皇執筆にあたって」木村毅
〃 「末期の目」磯田光一
26 「明治天皇」木村毅　41・10・28　395回完
〃 「眼中の句」楠本憲吉
〃 「小説の毒」丸岡明
〃 「時代と共に変わる小説理念―高見氏の死に学ぶ」日沼倫太郎
27 「作者のことば」黒岩重吾
29 「女の氷河」黒岩重吾　41・7・19　246回完
10 3 「料理と酒」小松砂丘
5 「大安と仏教」由起しげ子
〃 「津村節子著『玩具』」無署名
〃 「関茂著『八木重吉』」無署名
10 「目あきの盲論―県下の詩創造と運動発展のために」浜口国雄
〃 「北国俳壇八月賞」富安風生選
〃 「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
〃 「『朱鷺』を読む」森井道男
15夕 「インタビュー・岩倉政治」
17 「北国歌壇九月賞」近藤芳美
〃 「北国俳壇九月賞」富安風生
〃 「虚実あざなう短い線―雁の句をめぐって」楠本憲吉
19 「長沼弘毅さんに聞く―推理小説の楽しみ」
20夕 「『代表時代小説』」福田茂夫
21夕 硫黄島玉砕を叙事詩に、詩人木原孝一さん金沢で語る（☆記事）
22夕 「北国と失愛の叙情詩人―三国での故三好達治」則武三雄
23夕 「会わざる友人だった太宰治と折口信夫」無署名
24 「傍観者からの発信―中村慎吉・浜口国男論争にふれて」西敏明
25 「ダイジェストをつくれ―読書の習慣は若い間に」荒正人
〃 「小島信夫著『抱擁家族』」浅野郁代
〃 「著者とインタビュー・『アリランの歌』を訳した安藤次郎氏」
28 「インタビュー・坪田譲治、滑川道夫」
11 2 「美しいことばとは？幸田文さんに聞く」
3 「充実した『平和』をこそ」阿部知二
〃 「心うたれる晩秋の菊」野間清六
〃夕 「スポーツと私」北条誠
7 「不毛な『目あきの盲論』―続・県下詩運動発展のために

―」中村慎吉
〃　〃　「北国俳壇十月賞」富安風生選
〃　〃　「北国歌壇十月賞」近藤芳美選
〃　〃　「雑種文化の原型」山田宗睦
〃　〃　「エレキ禁止をめぐって」十返千鶴子
〃　〃　「学芸片々」深田久弥
8　〃　「佐多稲子さんに聞く・生きるということ」
10　〃　「岡潔・小林秀雄著『対話・人間の建設』」伊藤武雄
〃　〃　「水上勉著『おきん』」無署名
〃　夕　「『抱擁家族』の小島信夫をたずねて」日沼倫太郎
13　夕　「佐多稲子著『女たち』」八木義徳
〃　夕　「著者インタビュー・佐多稲子さん」
14　〃　「空理空論を排す」浜口国雄
16　〃　「笑いと文化」金子光晴
〃　〃　「二人の作家―その文学―黒岩重吾と木村毅」尾崎秀樹
〃　〃　「インタビュー・木村毅氏、黒岩重吾氏」
17　〃　「漆芸雑観」松田権六
〃　〃　「田村泰次郎著『蝗』」西敏明
〃　〃　「大原富枝著『黒潮の岸に』」巌谷大四
27　〃　30周年迎えた日本ペンクラブ（☆記事）
28　〃　「折口信夫全集再刊に思う」西村通男
〃　〃　「実践者の危険なおとし穴」西敏明
〃　〃　「日本の近代の本質―漱石没後五十年―」荒正人
30　〃　「傑人と私」木村毅
12　〃　「安部公房著『砂漠の思想』」平田次三郎
1　〃　「文芸時評―12月の文芸作品」佐伯彰一
〃　〃　「アメリカ文学の断面」牧田徳元
〃　〃　「太平洋を渡った天狗」宮崎正明
〃　〃　「アメリカの地方在住劇作家」山崎正和
2　夕　「今なお最大の読者を持つ―漱石没後50年」無署名
9　夕　森山啓氏を囲み―小松で読書グループの集い（☆記事）
12　〃　「写生からイメージへ―現代俳句の流れと県下の俳壇」北市都黄男
〃　〃　「私の俳論」蔵巨水、南清風、中山純子、梅木酔歩、館中さつき、中野塔雨、浅川方銭、逢坂月央子、町原木隹、黒田桜の園
〃　〃　「眼中の句―私の動物記」楠本憲吉
〃　〃　「北国俳壇十一月賞」富安風生選
16　〃　「男と女・なぜ差別する」（☆講演要旨）住井すゑ
19　〃　「北国歌壇十一月賞」近藤芳美選
24　〃　「ブームについて―こどもは残酷に育っている」寺崎浩
27　〃　「『大学出』ということ」城山三郎
〃　〃　「小説を中心に文壇1965年の収穫」巌谷大四
28　〃　「杉森久英著『大風呂敷』」西敏明
〃　〃　「『現代文学大事典』」川端康成
〃　〃　「高橋和巳著『憂鬱なる党派』」秋山駿
〃　夕　「師走に思う」若林喜三郎
29　〃　「丙午」網野菊

昭和四十一年

1　1　「日本ノ心」（☆対談）堀田善衛、鈴木大拙
〃　〃　「ふるさとよ自信を持て―石川県の人物群」杉森久英
〃　〃　「ふるさとに望む」（☆対談）佐伯彰一、永井道雄、松下圭一
〃　〃　「青春よ　冒険的であれ」深田久弥

3　詩「愛の出発」鮎川信夫
〃　〃　「教育の急務は何か」中野好夫
〃　〃　「これからの日本人」大岡昇平
4　〃　「一月の詩」布施明
〃　〃　「炭百俵」永井竜男
〃　〃　「新年文芸入選作」選者（近藤芳美、富安風生）
7　〃　「選者近詠」近藤芳美、富安風生
9　〃　「日本の文化」（☆対談）石田英一郎、桑原武夫
〃　〃　「外人の日本文学ブーム」村松定孝
〃　〃　「こわれた人形」串田孫一
〃　〃　「切山椒」円地文子
〃　〃　「ＳＦ　君かと思いて」光瀬龍
16　〃　「俳句のすすめ」長谷川浪々子
〃　〃　「文学―その読み方、えらびかた」（☆談話）遠藤周作
〃　〃　「ミステリー昨今」中島河太郎
〃　〃　「歴史のＳＦ的設定」福島正美
〃　〃　「まだまだ続くスパイ小説ブーム」常盤新平
20　〃　「芥川賞の受賞に思う」高井有一
〃　〃　「芥川・直木賞の選考結果」無署名
21　〃　「家族の心の交流」由起しげ子
〃　〃　「芥川・直木賞の受賞者たち」久保田正文
23　〃　「著者訪問・『憂鬱なる党派』の高橋和巳氏」
〃　〃　「書評『憂鬱なる党派』」森井道夫
〃　〃　「書評・円地文子著『樹のあはれ』」福田茂夫
26　夕　「私・と・本『人間の心得』亀井勝一郎氏」
28　夕　稲元さんが句集を出版（☆記事）
30　〃　「俳文・大阪弁」楠本憲吉
〃　〃　「人生無宿」江藤淳
〃　〃　「文芸時評」佐伯彰一
31　夕　「きびしい内面凝視―歌人古川達夫氏をいたむ」津川洋三
2　2　「鬼の仔」（☆詩）仲嶺宏子
4　夕　「初午あれこれ」水原秋桜子
6　〃　「曽野綾子著『弥勒』」西敏明
〃　〃　「倉橋由美子著『妖女のように』」浅野郁代
〃　〃　「木下恵介著『二人の星』」金子曽政
〃　〃　「北国歌壇一月賞」坪野哲久
7　夕　森田草稔さん詩集『天の指紋』（☆記事）
13　〃　「人生清談」末川博・橋本峰雄
〃　〃　「日本の心」久松潜一
16　〃　「思い出の記」新田次郎
〃　〃　「石の季節感」麻生徳次
17　〃　「二十代の考え―作家の場合」瀬沼茂樹
20　〃　「異色の文学論―蒲生欣一郎著『もうひとりの泉鏡花』」新保千代子
〃　〃　「著者（蒲生欣一郎）訪問」無署名
〃　〃　「北国俳壇一月賞」富安風生
26　〃　「現代短歌の周辺」（☆対談）芦田高子・米田憲三
〃　〃　「五・七・五・七・七はむずかしい―小倉百人一首を英訳して」アルフレッド・Ｈ・マークス
31　夕　「スモッグと春霞」森山啓
2　〃　「三月号の文芸雑誌」佐伯彰一
3　〃　「書評『小林秀雄対談集』」日沼倫太郎
7　夕　「地中　穴を出る」古川晴男
8　夕　「歩くよろこび」森山啓
9　夕　「放送放言」大林清
10　夕　「下出積与著『木曽義仲』」伊藤武雄

〃夕「著者とインタビュー・下出積与」
〃夕「『山本五十六』と阿川弘之」山本容朗
〃　中野重治さん金沢へ（☆記事）
12夕「北陸児童文学賞の選考を終わって」角山勝義
13「北国俳壇二月賞」富安風生選
〃「源義経人気のなぞ」岩倉政治
〃「松本清張著『私説・日本合戦譚』」西敏明
〃「北国歌壇二月賞」近藤芳美選
15夕「あかずの非常口」森山啓
16「佐藤清郎著『チェーホフの生涯』」高橋義孝
〃「真継伸彦著『光る声』」秋山駿
〃「『森田章稔詩集』『天の指紋』」中村慎吉
〃「インタビュー・『旅と郷土の文学碑』の本山桂川氏」
22「大学は花嫁学校ではない」江藤淳
〃夕「昇天したコウノトリ夫人からの手紙」森山啓
24「国語としての漢語」諸橋轍治
〃「スミレの花咲くころ―三月と俳句」楠本憲吉
〃「詩人における愛のかたち―萩原葉子の『天上の花』」無署名
〃「書斎にて・清岡卓行」
27「文学にみる東と西」（☆対談）アルフレッド・マークス、川口久雄
〃「文学の中の人間―人生の第一義は何か」高橋和巳
28夕「四月号の文芸作品」小松伸六
29夕「詩人の亡き後」森山啓
31「郷土に取材した二つの小説―森山啓・水芦光子」西敏明
〃「高井有一著『北の河』」金子曽政、福田茂夫、森井道男、西敏明、浅野郁代、太田順子

（完）

（付記）

『北国新聞』は昭和41年4月1日発行分より縮刷版を発行した。ひと月一冊のそれには索引が付されており、本稿のごとき年表も不必要と言えば言えなくもない状況を呈している。従って、創刊号以来の長きにわたる同紙の文芸関係記事を拾いあげて来た本稿の役目も終了したと判断して、今回をもって調査報告を打ち切ることにする。